

社長タンカで退席

患者ら会場で夜明かし

チツソ本社

東京・丸の内の子ツソ本社で、
八日午前十時半から始められた水
一との補償交渉直談判は、九日午前



横になった島田社長（左）と患者の川本さん

零時半、島田社長の健康状態に下
クターストップがかかって中断、
患者側とこれを支援する水俣病を
告発する会員約百人はそのまま同
本社で夜をあかした。

十四時間におよぶ長時間交渉た
ったが、患者側の「自主交渉」要
求に対し、島田社長は「中央公害
審査委持ち込み」の態度を柔えな
かった。また患者側の「来水」要
望には「十五日に水俣現地に行
き、出来るだけ多くの患者の家を
回って実情を見、話を聞きたい」
と答えたが、果の認定資料を見せ
てもらわないと患者の症状がわか
らないので、具体的交渉は出来な
い—という態度をとり続けた。

島田社長は、九日午前零時すぎ
患者側付き添いの医師とチツソが
さし向けた医師の診察を受けたあ
と、高血圧症状などのためタンカ
で会場から運び出された。患者側

代表の川本輝夫さん(○)は、イス
を並べて横になっていた島田社長
に「どうして私たちの気持ちがあ
わかってくれないのか。残念だ」と
男泣きしていた。

交渉はチツソ側退席のため、打
ち切りの形になっているが、患者
側は「このままでは水俣に帰れな
い。社長が父メならほかの重役と
話を続けたい」と会場に陣どっ
た。しかし、チツソ側がこれに応
じる気配をみせないため、午後一
時現在、告発する会員約百人が会
場を封鎖して廊下三カ所にすわり
こんでいる。

(東京支社)